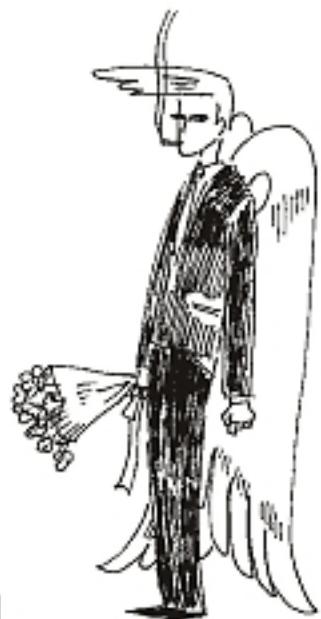


# たたかえ！ ヒガシヤマン

round 36



©大畠栄里



平岡

平岡

## 【必殺技】花束に仕込んだショットガン

映画のキャラクターの様に花束にショットガンを隠している。しかし外見通り性格もエンジェルなので、獲物についていき情が移ってしまい、任務に失敗してしまう。心優しきエージェント。

【考案者】田中 杏奈

京都造形芸術大学情報デザイン学科イラストレーションコース在籍。

近代産業遺産アート再生プロジェクトに参加。  
2012年度リーダー。

口癖は「おなかすいた」と「生きるのが辛い」。

ヒガシヤマンの返し技

## 【必殺！アンパンマン】

平岡は、ヒガシヤマンの同級生だ。彼はヒーロー養成所で成績優秀だったが、正義の味方という職業につきまとうある種のいかがわしさに違和感を持って暗黒面に堕ちてしまった。女にモテさえすればオッケーなヒガシヤマンとは対照的だ。久々にヒガシヤマンの前に現れた平岡は、また任務に失敗したと悩んでいた。暗黒面に堕ちながらも悪役になりきることもできない平岡。ヒガシヤマンはそんな彼が好きだ。「大丈夫、きっといつか暗殺に成功するさ」ヒガシヤマンはそう言って、そっと自分の顔の一部を平岡に渡した。

東山青少年活動センターにひそかに存在するキャラクター・ヒガシヤマン。彼は少し間違っている。「平岡を更正させてやるべきだって？いいんだ。僕は彼が悩み苦しむところをもう少し見ていたいから。フフ……」新年早々、ヒガシヤマンの気味の悪い笑みを見た。がんばれ、ヒガシヤマン！！

文：筒井加寿子

# ヒガシ ガシ

VOL.  
**36**

2013 WINTER



- 01**・たたかえ！ヒガシヤマン
- 02**・もくじ
- 03**・東山schedule
- 05**・【特集】東山再発見
- 08**・ヒガシヤマQ&A
- 09**・ワークショップななめ読み
- 10**・おも検／季節のイラスト
- 11**・ステージサポートプラン
- 13**・Higashiyama Youth

空腹を充たすために食べるスナック菓子のように、  
東山の情報もかじってほしい。  
ヒガシ(干菓子)のイメージからくる季節感や彩りも  
添えて。ヒガシガシは、そんな情報誌です。



イラスト  
奥田 恵理子【MEKKEY】

# 東山schedule 2013



	1月	2月	3月
1	火	金	金
2	水	土	②
3	木	日	日
4	金	月	月
5	土	火	③
6	日	水	水
7	月	木	木
8	火	金	金
9	水	土	②
10	木	日	日
11	金	月	月
12	土	①	火
13	日	水	水
14	月	木	木
15	火	金	金
16	水	土	①
17	木	日	日
18	金	月	月
19	土	火	③
20	日	水	水
21	月	木	木
22	火	金	金
23	水	土	土
24	木	日	日
25	金	月	月
26	土	火	④
27	日	水	水
28	月	木	木
29	火		金
30	水		土
31	木		日

■は休館日です

## ① セレノグラフィカ 連続ダンスワークショップ 「丸ごと半年ダンスのススメ」

コンテンポラリーダンスユニットのセレノグラフィカとセンターが共同で、中学校の先生や児童館・学童などの職員を対象に、体育の授業や普段の活動にも役立つ創作ダンスの作り方を、自身も楽しみながら学ぶことができるワークショップを行っています。

日 時: 第3回 1月12日(土) / 第4回 2月16日(土)  
各回前半14:00~17:00、後半18:00~20:00

参加対象: 創作ダンスと関わりのある、先生、教育関係者

※その他、学校以外の場面でも、これから創作ダンスと様々な領域での関わりを予定されている方々

参加費: 各単発1,500円

ナビゲーター: セレノグラフィカ(隅地 茉歩、阿比留 修一)

申込: 要予約(先着順にて受付中)

## ② 東山コトハジメ「粘土でアニメをつくろう!」

粘土で作ったキャラクターを少しずつ動かして1コマごとに撮影し、仲間と協力して、オリジナルストーリーのクレイアニメを創りましょう。

日 時: 2月2日・9日・3月2日・23日(土曜日/4回) 13:00~15:00

対象: 京都市にお住まいの方、通勤・通学先のある13歳~18歳の中高生年代の方。

定員: 10名 参加費: 無料

申込: 要予約

☆今までの東山コトハジメの動画を

チェックしてみよう!

動画配信サイト Youtube

【キーワード】東山コトハジメ



### ③ ガラスワークショップ 「ガラスのアクセサリーとオリジナル鏡」

自分でデザインをしてガラス板を組み合わせて焼成する、ヒュージングという技法で、アクセサリーを作りましょう。また、サンドブラストで鏡を削り模様をいれて、手軽にオリジナル鏡ができあがります。



日 時:2月5日~2月19日(毎火曜日/全3回)

18:30~20:30

参加費:1,500円(材料費込み)

\*アクセサリー1点、鏡1点の作品ができます。

ナビゲーター:佐藤 聰(ガラス作家)

申込:要予約 先着順にて受付中。

### ④ ハンコワークショップ 「オリジナルハンコをつくろう」

作って楽しい!おして楽しい!  
もらった相手も楽しい!そんな手作りハンコ。

気持ちを表すものや日常的に使用できるものまで。自分オリジナルの絵柄や言葉を入れた消しゴムハンコを作ってはみませんか。



日 時:2月26日~3月5日(毎火曜日/全2回)

18:30~20:30

参加費:1,500円(材料費込み)

\*ハンコ3点ができます。

ナビゲーター:高橋 朋子(ハンコ作家)

申込:要予約 先着順にて受付中。

### ⑤ ココロからダンスWS #8修了公演

昨年11月から始めた、創作ダンスワークショップの修了公演です。ひとつのテーマに沿って集まつたみんなでしかできない作品を創り上げます。ぜひ、ご来場ください。

日 時:3月2日(土) 19:00

3日(日) 13:00

\*開場は開演の30分前です。

入場料:前売700円(日時指定でのご予約)

当日1,000円

会 場:東山青少年活動センター 創造活動室

☆チケット取り扱い・予約

東山青少年活動センターにて

直接来館か電話(075-541-0619)

E-mail(higashiyama@ys-kyoto.org)へ

お名前・来場日・人数を明記の上、ご予約ください。

#### ヒガシガシ編集スタッフ募集!

年4回、フリーペーパー「ヒガシガシ」の発行に向けて、紙面の構成、取材、編集、印刷、製本作業を行なうスタッフを募集しています。それぞれが得意分野を活かしながら、出会いや発見を大切に活動しています。ぜひ一緒に活動しましょう!

対象:京都市に在住もしくは在学・在勤されている13歳から30歳までの方

##### 【今回の事業について】

対象:京都市に在住もしくは在学・在勤されている13歳から30歳までの方

\*いずれの事業も会場・問い合わせは京都市東山青少年活動センターです。TEL 075-541-0619 受付日より、直接来館、または電話・E-mailにて先着順受付。



# 東山再発見

特集

東山の地域に密着して、様々なイベントやワークショップなどをされているまか通の田中杏奈さんと櫻澤克征さん。

まちの活性化を目指して、活動されているお二人に“東山”に対する熱い想いを聞かせていただきました。



まか通 田中杏奈さん 櫻澤克征さん

●—プロフィールをお願いします。

田中 まか通に入って二年目の田中杏奈です。京都造形芸術大学情報デザイン学科イラストレーションコースに所属しています。今年のリーダーをさせていただいています。

櫻澤 櫻澤克征といいます。今四回生で、まか通には一回生から入っていて、今年で四年目になります。田中の二個上のリーダーをやらせてもらっていました。

●—活動の具体的な内容を教えてください。

田中 櫻澤 まか通は近代産業遺産アート再生プロジェクトという名前なんですけど、まか通として始まってから七年目です。元々、六原地区を拠点に活動していました。藤平陶芸の登り窯（現在は使われていない）の再生活用として、そこの中でイベントやトークライブなどをやらせてもらっていたんです。それと同時に六原のフィールドワークをしたり、まち歩きをしたり、楽しいことや面白いことをイベントにしていますが、それを知ってもらうだけではなくて、それを通して、まちの活性化ができると私たちの先々々代が、こちらの地元に密着して活動していく、それを代々継いでいるという形ですね。現在は六原だけでなく東山区全体を捉えています。

●—今年はどのような取り組みをされましたか？

田中 每年、ものづくりやことづくりなどのテーマがあって、今年は“ことおこしをデザインする”をテーマに、私たちが面白いと思ったものを、地元により根付かせていくということをしました。例えば、口頭伝承の重要さを認識してもらうために地獄絵解きを毎年開催しており、いつもは大人向けを意識していますが、今回はより根付かせていきたいと、子どもたち向けの地獄絵のお話を開



催し、もう一步進んだイベントにさせていただきました。

櫻澤 地元の方が主体となって動くのが地域振興としての一番の形ではないかと思っているので、地域の方々から率先して意見を言ってもらってから、僕たちが動いていくという形にしたいと思っています。

●—昨年度と違ったところは?

田中 今年はテーマを掘り下げていくと結果的に子ども向けのイベントが多くて、イベントを続けていると来てくれる子どもたちの顔を覚えたり、顔見知りも増えましたね。

櫻澤 地域の方からも顔を覚えられていて、地域のお祭りや行事などで地域の方々とお話しするのはとても楽しいですよ。

●—イベントの一つの職人弾丸ツアーは、毎年されるんですか?

田中 いえ、去年からですね。去年のテーマが職人さんとかものづくりのテーマだったので、そこにあやかって、一般の方は職人と触れ合う機会なんてあまりないわけなので、まずそこからだらうということで開催させていただいたんですけど、まだまだ続していく感じですね。

櫻澤 そうですね。京都ならではの扇子職人とか桶職人とか、そういう職人さんを実際に見て、そこからもまちを知りたいだければと思っています。

●—活動をするうえでのこだわりや大切にしていることはありますか?

櫻澤 リピーターの方や、毎年恒例のイベントを楽しんでいる方々が、もう一度来ても楽しめるように、どんどんプラスアルファで改善していくところは改善していく、そういったところがすごく楽しみで、こだわりでもあります。あとは、感謝の気持ちが一番強いんじゃないかなと。いろんな繋がりがあるので、それを大切に

して、ありがたみを持ってやっていきたいです。

●—イベントに来られた方の意見を取り入れたりもしているんですか?

櫻澤 每回アンケートはとらせていただいてます。その年にちなんだテーマを作り変えさせてもらって、いろんな意見が形に残るようになっています。あとは生の声が残るようになっています。たわいのないコミュニケーションの中から「BGMうるさいね」とか、「遠くて見えないわ」とか、そういう意見をもらうことを大事にしています。

●—ワークショップではどのようなことをされているんですか

田中 いろいろありますが、例えば七月に二本立てのワークショップ、文字と音についてやりました。視覚と聴覚などの五感を使ったイベントで、文字の方では漢字の元の意味を知るとか、漢字を新しく作ったり、アルファベットを辺やつくりに見立てて、新しい漢字の名前を作るといったものです。音のワークショップは実際にフィールドワークに出て音を集めて、絵や立体の作品に表現するというワークショップをやりました。十一月には、鍾馗づくりをやり、実際に陶器の鍾馗にしましたよ。

櫻澤 屋根瓦のうえに鍾馗さんがいるんですけど、この鍾馗さんっていうのが京都と奈良の地域に多い。でも、町民の人でもあまり気付かない。僕たちもこれなんだろうって感じで、どんどん調べていったんです。今では件数も減って鍾馗さんを作ってるところも少ない。

地域の人に慣れ親しんだ伝統とか伝説とか伝承は、掘り起こして残していくかなと思ってます。

●—まか通の一番の面白味と、一番辛いところを教えてください。



櫻澤 一番の面白味はイベントをやるっていうライブ感ですね。いろんな人の繋がりなど様々なものがあって、その中でイベントを企画してお客様が来てくれて、やったなと思える。それが一年たってふり返った時に、こういうところで繋がってたんだなとか。そういったことを感じられるところですね。辛いところは、後輩に、楽しいこととか辛いことをどう伝えたらいいんだろうっていうところですね。一から十まで全部を先輩が伝えてしまうと、それだけでは伝わらない何かがあったりするし、面白味にもかけてしまう。でも、ほっておくとやっぱり駄目で、そういうチームマネジメントっていうのは辛いというか難しいところですね。言葉じゃなくて行動かな、とか。そういったところは勉強になります。

田中 自分がリーダーという立場になってみると、自分の考えをちゃんと持つということがいかに大切かってことを知りました。特に今は冊子の編集長をさせていただいているんですけど、そのあたりがすごく難しいです。デザインから内容からすべて監修しないといけないので、いろんな人にどうしたらいいと思いますかって聞いたりして、考えることが辛いですね。ただ、そこを乗り越え



ワークショップの様子

るのが楽しいです。出来なかつことが出来るようになったというか、先輩越えてやつたぜみたいな。

●—来年度の予定は？

田中 今カルタ第二弾をしようと思っていまして、あと鍾馗さんのイベントは春にやろうかなと。

櫻澤 あと職人弾丸ツアーもやるし、地獄絵解きもします。どんどん詰まっていくんで、その隙間を縫いつつ色々なことをやっていこうかと。去年は職人さんのシンポジウムを開かせていただいたんですよ。そのためにはまちを歩いて、職人さんにヒアリング調査をしたんですけど、今年はもうちょっとそこを広げて、職人さんのサミットを開こうと思っています。

●—では、今後の展望は？

田中 冊子のことで言わせてもらうと、イベントとワークショップの報告書+著休め的なものが多かったので、もう一度、あなたのまちの愛し方をメインに据えて行こうかなという、原点回帰をして行かなければいけない時期かなと思っています。昨年と今年はフィールドワーク離れた二年間だったので、路地をめぐってみましょうと言ってフィールドワークをやりました。すごく些細なことなんですが、自分達がそれを楽しむっていうのがすごく大切なことなんだって最近思います。

櫻澤 自分はもう出て行っちゃう立場なんんですけど、今後後輩に伝えるとするなら、後輩が自分達でこういうことをやりたいという熱意を持って、やりたいことをやれる組織にならいいなと思います。どちらかというと先生方の影響が強くて、イベントなども形になりすぎてしまったところはあるので、目的意識をもって、そのために上回生がサポートするとか、

そういうものが大事なのかなって思いますね。

●—ありがとうございました！

●取材 夏原理恵

編集 谷口愛理(京都橘大学4回生)



# ヒガシヤマ Q&A

## Q 寒さを乗り切る対策は? (メンタル面を含む)

日に日に寒くなってきましたね。こんなに寒くなってくると、動くのが、出かけるのがイヤ~となる方も多いのでは!?

そこで、今回の Q&A では、そんな寒さを吹き飛ばす、あなたならではの寒さ対策をきいてみたいと思います。



A. ベストとセーターを両方着る  
あたたかい  
もえか (13才 女性)

——なかなかない組み合わせですね。温かそう♪

A. 早めにふとんに入る  
あたたかいから  
にっちゃん (12才 女性)

——布団の中が 1 番ですよね!!

A. お風呂にいっぱいいつかる  
体からあたたかくなるから  
けい (13才 女性)

——体の芯から温める! 大事です。

A. 気合いで乗り切る  
最後は気合でがんばるしかない  
餅子 (19才 女性)

——ごもっとも! 無敵の最終手段です。

A. まずは家の中でストーブをたく。外に出る時はそこそこの厚着をして出る。以上のことをしてもカバーできなきときは妄想する。(省略)しかし、自分もテンションが上がりすぎて、車が来ているのに気づかず、危うくひかれそうになったことがある。

ぽいぽい (20才 男性)

——くれぐれもお車にはお気を付け下さい。

A. 有田みかんを食べる。  
有田みかんはおいしょ!  
あかたまご (15才 女性)

——ビタミンたっぷりで、風邪予防にも最適です。

A. かいろとお友達!  
温かいから。  
ねくらこ (15才 女性)

——寒い日は手放せない品物ですね。

A. 運動する。  
体があたたまるから。  
恋するうさぎちゃん part2 (15才 女性)

——体の中からポッカポカですね。

A. 恋人をつくる (恋をする)  
やはり、身も心もあっためてくれるのは恋人かと。  
恋人がサンタクロース (24才 女性)

——良い縁がありますように…。

A. こたつ  
冬といえばこたつでしょ!!  
毎家留 (15才 女性)

——冬の定番であるこたつは欠かせませんね。



# work shop

## ものづくりワークショップ2 ツチカラウツワガデキルマテ 電動ろくろ&手びねり

参加者には、土練りから、ろくろ成形、手びねり成形、削り、釉薬がけといった一連の流れを全7回の工程で経験してもらいました。最終回には、作品を持って料理屋さんに行って、食事会を行いました。それぞれが作った器に盛られた色とりどりのお料理をいただくと、自然と笑顔が溢れ、楽しい時間を過ごしました。



【開催日時】平成24年9月25日～11月6日  
(毎週火曜日 / 全7回) 18:30～20:30

【参加者】8名

【ナビゲーター】涌波 隆 (陶芸家)

### ●概要

### 参加者の感想

- 久しぶりに習い事をしているようで楽しかったのと、ものを作る楽しさを改めて感じた。
- 見るだけと、実際に土に触れてみて自分で作る楽しさを感じた。
- ろくろを始めて使ったこと。いろんな人としゃべりながら楽しくできた。
- 良い先生に出会えました。ありがとうございました。ろくろを少し知れたので良かったです。
- 実際に使う楽しみができた。
- みなさんとたくさんお話ができた。
- 週一回楽しみができた、会社帰りに習い事ができる自信がついた。



およそ1ヶ月半にわたり、汗をにじませながら土を練り、8名の参加者とワイワイおしゃべりし、ナビゲーターの涌波さんのサポートを受けながらのワークショップでした。ドキドキとワクワクを繰り返しながらつくりあげた作品は、思い通りにいったり、いかなかつたりしたけれど、それに納得のいく自信作となったようです。

# おも検、

ヒガシガシボランティアが、ちょっと気になる噂を検証する、おもしろ検証コーナーです。

テーマ:六波羅蜜寺で1年の運勢を占ってみる！



## 六波羅蜜寺とは？

天暦5年(951)に空也上人により開創された西国第十七番の札所。兵火、火災などに見舞われながらも、修復・補修により、現在は多数の重要文化財を有し、「鎌倉時代の宝庫」とも呼ばれている。



## 開運推命おみくじとは？

四柱推命をもとにした占い。生年月日と性別から一年の運勢をうかがい知ることが出来る。よりよく過ごすための指針・努力事項などが具体的に書かれており、多くの方から好評をうけている。遠方から郵送にて求めることもできる。

(ヒガシガシ調べ)



今回、おも検では六波羅蜜寺にてよく当たると評判の開運推命おみくじを体験。

12月にやると残りわずかの2012年の運勢のものになるらしく、購入時には、「今年のです。」とは二度、念を押された。かなり達筆な字の為、解読できない部分もあったが、おも検メンバーは今年は良い年であることはわかり、ホッとする。(もう終わるけども。)

購入している人は20代から30代の女性が多いようで、男性には分らない乙女心からかもしれない。

●検証・編集:ヒガシガシボランティア

## 季節のイラスト テーマ:「サンタクロースに何かプラスするなら」

サンタクロースにプラス1ということで今回も面白いイラストがたくさん寄せられました。

服のアクセントや小物として“ちょい足し”されているものもあれば中にはサンタの概念を覆すものまで様々です。思わず数十年後のサンタはこんな風になっているのかなと想像が膨らみました。



このコーナーでは、テーマにそったイラストを募集し、いくつかの作品を紹介しています。

●編集:水野里織(大阪デザイナー専門学校2回生)



# STAGE SUPPORT PLAN

ステージサポートプラン

1月～3月

東山青少年活動センターが自主公演の支援をします。初心者から経験者まで、いろんな人たちに東山にある創造活動室を利用してほしい。だから次のようなグループの公演を応援しています。

- ① First Trial (活動経験の浅い人たち)
- ② チャレンジ! (何か新しいことに挑戦しようという人たち)
- ③ 東山のおススメ! (京都でがんばって活動している人たち)

★詳しいことのお問い合わせは→東山青少年活動センターへ

<http://ys-kyoto.org/higashiyama>

HPでも  
ご覧頂けます。

## 応募方法

\*応募には ..... まず、担当者にご相談ください。

\*企画書の提出(公演希望日、公演内容やセンターで公演をしてみたい理由を書いてください)

..... 公演しようとする月の4ヶ月前の20日まで

\*個別面談 ..... 応募された全てのグループと面談(応募締切日より10日以内)

\*決定 ..... 東山青少年活動センタースタッフとボランティアで選考の上、支援公演を行っていただけるグループを決定。(公演しようとする月の4ヶ月前の月の末日)



## 創活番ボランティア募集中!

「創活番」とはステージサポートプランのお手伝いをするボランティアチームです。この度、新メンバーを募集しています。何か新しいことを始めてみたいと思っている方におすすめです。照明や音響、舞台の知識も身につきます。詳しくはお問い合わせください!



### ■十中連合×the★planktons

「この世界は、そんなに広いのですか」

前回公演、『悲しい巨人を』をリメイクした本作。

巨人になった少女の、巨人になって、恋をして、海に潜って、地上に出てきて、また海に帰るまでの物語です。

【HP】<http://cew13550.p2.weblife.me/index.html>

2/1(金)19:00

2(土)14:00/19:00

3(日)13:00

前売 1,000円

当日 1,500円

○お問合せ...

080-5157-9286(制作)

## ■ 劇団銀色アルペジオ



### 「劇団銀色アルペジオ#0 『岸田國士短編劇集』」

1人の男に思いを寄せる二人の女、避暑地で出会った二人の青年と母娘、悩み多き人妻と彼女を心配する姉夫婦。—これは岸田國士の描く「女性」の物語である。

2/8(金)19:00

9(土)14:00/19:00

10(日)13:00

前売 500円 当日 700円

○お問合せ…

g.arupezio@hotmail.co.jp

## ■ 居留守



### 「待つこと忘れること」

marche 行進 marque 刻印 marge 余白

イメージの手触りで輪郭を描くこと。

言葉が指す方向にほんの少し意識的に成ること。それを試みること。

【Twitter】@irusunokarada0

3/15(金)19:00

16(土)14:00/18:00

17(日)13:00

前売・当日共 800円

○お問合せ…

irusu@outlook.com

※すべての演劇公演の開場は開演時間の30分前です。

## ■ セレノグラフィカ



### 『すっぴんダンスをしよう!』Vol.3

ダンス上演会+合評会

### 「ダンスでア・ラ・カルト!」

2012年8月に開催したWSや10月から始まった先生対象ワークの参加者を含め、セレノグラフィカゆかりのダンサーたちが集合。美味しいダンスを披露します。

3/24(土)夕方(予定)

25(日)夜(予定)

詳細はHPにて随時公開します。

○お問合せ…

info@selenographica.

【HP】<http://selenographica.net>

改めまして。

これが  
ゆとり世代です。  
ナメてもらっちゃ  
困るんです。

## ■ 鴨沂高校演劇部、同志社高校演劇部

### ジョイント卒業公演

私たちは今回、高校演劇の枠の中から、その枠の上を跨いで、枠の外への一步を踏み出そうと思います。完全創作脚本。これがゆとり世代です。乞うご期待!

3/30(土)13:00/17:00

31(日)13:00

前売 300円

当日 500円

○お問合せ…

iwe.are.yutori@gmail.com

# Higashiyama Youth

東山センターを利用している青少年にインタビュー

今日はお話を伺ったのは、「劇団しようよ」の大原さんと吉見さん。お二人に、劇団の今までとこれからを語っていただきました。

2011年の春に、脚本・演出と俳優をされている大原涉平さんと作曲・演奏担当の吉見拓哉さんで旗揚げされ、その後ドラマトゥルグの稻垣貴俊さんが加わり活動されている劇団です。

## ——劇団名の由来は?

大原 劇団を作ろうとして名前を考えた時に、「劇団」って付くのはだいなあ、と思っていたんですよ。「劇団」と付いているけど、付いているように見えない名前にしようと思って「劇団しようよ」となりました。他にも「劇団、しようよ」って誘いかける団体になつたらいいなという意味もあります。彼は音楽をやっていた美術大学の友達なんですが、「劇団しようよ」と誘って旗揚げをしました。

## ——活動をはじめたきっかけは?

大原 僕は高校までさかのぼります。元々は漫画家になりたくて美術系の学校に通っていたんです。でも授業だけではなく部活でもモノを作ることがしたいと思い演劇部に入ったんですね。やっていくうちに、表現するということは演劇でもできるなって感じ始めました。演劇の“生の表現”という部分が自分にっこいしつくりきて、高校から演劇にのめり込んでいきました。

吉見 僕も中学生の時は漫画家になりたかったんです。でも教室の隅で絵を描いたり本を読んだりでモテないままだなと思いまして、それで高校は人前に出る部活をし

ようと考えて軽音部に入部しました。そのままロックにのめり込んでいき、大学3回生まではバンドをやっていたんですけど、色々あってそのバンドを辞めてしまったんです。その頃に大原に作曲の依頼をされて、後に「劇団しようよ」に誘われたのがきっかけです。

——これまでの活動内容を教えてください。

大原 本公演は劇場で、半年に約1回のペースでやっています。でも僕達の1番の特徴は「路上パフォーマンス」という活動です。脚本・演出と音楽家の2人だけで何ができるんだろうと模索する意味で始めました。僕が演技をして、彼がギターを弾く、というかたちで路上で作品を上演しています。

——路上パフォーマンスを観ている人の反響はどうですか?

大原 まず「何をやっているんだろう」と不思議な目で寄つてこられる方が多いですが、時には一緒になって盛り上がってくれることもあります。演劇というよりも演説に近いセリフを叫んで、そのとき音楽も鳴っているという、コンビネーションで見せていくパフォーマンスで、案外人が立ち止まってくれる時もありますね。

吉見 路上での弾き語りをよくやるのですが、それとは全然違います。弾き語りならお客様は「この人は音楽をしている」と理解しやすいのですが、演劇の路上パフォーマンスなんてなかなかないし、お客様もどんなふうに観たらいいのか戸惑っている感じです。色んな人が色んな見方をしているのが面白いですね。

——劇場と路上の違いは?

大原 「劇団しようよ」の俳優は僕しかいないので、劇場公演の時は色んな団体から俳優さんをお呼びして、その公演だけのために集まるメンバーで作品をつくっていきます。一方路上パフォーマンスは2人だけで行うので、



その時の僕達にとって最先端のものをつくります。そこでいわば「劇団力」を確認して、培って、それを劇場公演にも活かしていきます。演技の感覚も路上で創って確かめていきますね。

吉見 僕個人としては劇場と路上、2つにそんなに差をつけているつもりはないですね。

大原 路上パフォーマンスの方法を基に僕が脚本を書いて、劇団員3人でひとつのイメージを作っていく感じです。路上パフォーマンスの際に手探りで得たものを、どんどん劇場公演で活かしていきますね。

——センターではどんな活動をしていますか。

大原 主に稽古で使わせてもらっているんですけど、いろんな部屋の大きさがあったりしてすごくありがたく使わせていただいております。今年の春は創造活動室で公演もさせていただきました。

吉見 音楽スタジオも使いましたね。

——1番活動していると感じる時はいつですか?

大原 準備時間ですね。公演直前に劇場入りして、照明を吊るしたり舞台を組んでいっている時が1番活動しているなあって感じます。稽古中はとにかく形にしなくちゃいけないと思っていて、そんなふうに感じる余裕がなくていっぱいいっぱいなんです。本番中は集中しているんですけど、作品が少しずつ終わっていくのだという、虚無のようなを感じます。なので舞台が作られていったり照明が吊られたりする時が1番好きです。

吉見 僕は本番中です。お客様を目の前にしてギターを弾いている時が1番活動しているなって感じます。

——劇団としての目標はありますか?

大原 今京都や九州、北海道など日本各地、色々な地域の劇が盛り上がっています。色々な地域に自分達が行くことも大事だなと思っていますので、そういうことをやっていきたいです。もちろん路上パフォーマンスも続けていきたい。「劇団力」を培うことはしっかりとやつて、それをちゃんと劇場公演にフィードバックしていくことを改めて続けて、より一層濃い劇団になりたいです。

——今後の活動の予定は?

大原 「スホの白い馬みたいに。」という音楽劇を1月18日から22日まで、京都市内にある元・立誠小学校の音楽室でやります。時間をかけて創っていて、北九州にも行った、劇団としては最大規模の作品なので、ぜひ観ていただきたいです。物語の舞台は現代なんですが、『スホの白い馬』というモンゴルの民話から着想を得ています。吉見からは何か?

吉見 頑張ります。

大原 その一言に尽きるな(笑)

——ありがとうございました。

取材/編集:足立由佳(京都橘大学4回生)  
鈴木けい(京都女子大学3回生)

